



災害派遣チーム DMATのメンバー (DMAT: Disaster Medical Assistance Team)

## 災害時はDMATの医師や看護師らが中心となって

千葉県災害医療コーディネーター  
救急科 准教授  
わたなべえいぞう  
**渡邊栄三**

DMAT (ディーマツト)は、専門的な訓練を受けた医師・看護師・業務調整員の約5名で1チームを編成する医療チームです。災害が起きたら、厚生労働省のDMAT事務局や県からの派遣要請をもとに出動します。

当院にはDMATが2チームあり、東日本大震災や昨年の関東・東北豪雨時には、発災直後より出動して、被災地で医療活動や患者搬送などを行いました。県の災害対策本部との連携においても、「地域災害拠点病院DMAT」として中心的役割を担っています。

昨年10月、千葉市中央消防署との合同訓練では、経験豊富なDMAT隊員がインストラクターとして訓練を企画・主導。実際に救急車で約30人の模擬患者を搬送し、災害・事故現場から多くの傷病者を受け入れる流れを確認。傷病の緊急性などで分類し、治療の優先順位を決める「トリアージ」の手順も検証しました。

これからも院内外で訓練を重ね、もしものときに備えてまいります。

# 多くの命を助けるために

## 瞬時の判断が命を救う



昨年の関東・東北豪雨での救助活動の様子(写真提供: 亀田総合病院)



消防ヘリを使つての訓練 (千葉市中央消防署と合同訓練)



停電など非常時に備え、患者さんを階段で運ぶ訓練も真剣に行います



非常時、外来診療棟1階の待合室の椅子は背もたれを倒してベッドとして使用

## 新年のごあいさつ 人材育成と経営基盤の強化を図り、信頼される病院づくりを進めます

新年あけましておめでとうございます。

昨年は外来診療棟の改修が完了し、入院から退院までをサポートする患者支援センターのフルオープン、売店の増設など、利便性と快適性をさらに向上させることができました。

今年は、薬局とレストランを外来診療棟の隣に新設し、患者さんのアメニティを高めていく計画です。みなみ棟の改修後、4月には総合周産期センターがオープンします。少子化が進む中で、安心・安全な出産とよりよい小児医療の充実を図ります。

さらに、10年先を見据えて、新たな治療法の開発に向けた臨床研究や人材育成にもいっそう注力して

いきます。昨年立ち上げた「千葉大学関連病院会議」では、90を超える医療機関の病院長らが一堂に会し、知恵を出し合いながら、教育指導体制などを協議しています。

医療を取り巻く日本の経済環境が厳しさを増す中で、当院は質の高い医療を提供し続けることができるよう、経営基盤を強化し、全職員が一丸となって患者さんに信頼される病院づくりに努めてまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

千葉大学医学部附属病院長  
やまもとしゅういち  
**山本修一**



# 入院前から退院後まで、一貫してサポート

患者支援センターでは、多くの部門・職種と連携しながら、患者さんが安心して「入院前」から「入院中」、そして「退院後」も継続して診療・ケアを受けられ、その人らしい生活が送れるようサポートを行っています。また、地域医療連携の窓口として、ほかの医療機関から患者さんを紹介いただくときのFAX・WEBでの予約受付や、検査・画像データのCD-ROMでの提供を行っています。

患者支援センター  
センター長  
まっばらひさひろ  
松原久裕



## 入院前

### 退院後までスムーズな診療を

患者さんの情報を事前にお聞きしておくことが、スムーズな治療につながります。「患者支援センター」では、入院予約のときに薬剤師や看護師との面談を行うほか、手術を予定している患者さんには「周術期管理センター」や「臨床栄養部」などと連携し、手術前後に必要なことや栄養指導について説明します。



## 入院

### 安全・安心な入院生活のために

入院前にお伺いした情報は、必要に応じて病棟スタッフにも共有され、患者さんに合わせた診療・ケアを提供しています。お食事は、患者さんの病気や栄養状態に合わせて、手術のリスクを最小限にするため栄養価などに配慮したメニューを提供しています。マンガなどが充実した「なのはな文庫」や、インターネット閲覧もできる「ひがし棟 図書室」もご利用いただけます。

**看護師面談**  
入院中・退院後に必要なサポートを確認します

**入院申込み**  
入院についての説明や、病室の希望を確認します

**薬剤師面談**  
使用しているお薬・サプリメントなどを確認します

**周術期説明**  
手術前から行う口腔ケア・リハビリなどについて説明します

**栄養指導**  
病気や栄養状態に合わせた食生活について説明します

地域の医療機関や福祉施設などとの連携もしているから、退院後も安心!

治療への考え方や希望していることをちゃんと相談できた!

外来て伝えたことが病棟にしっかり伝わっている!

いろんなところで同じことを何回も聞かれなくて済んだ!



管理栄養士が病棟に訪問し、治療に適した食事を検討します



食事制限のない患者さんは、特別メニューも選択いただけます



プライベート空間を保てる個室(トイレ、シャワー付き)もあります



ベッドは洗浄して使っています

## ニュース & トピックス

NEWS & TOPICS

### 外来診療棟4階にある屋上庭園をご存じですか?

この屋上庭園は、環境に配慮した安らぎの庭園として、医学部、環境健康フィールド科学センター、工学部、園芸学部による共同プロジェクトで造られました。約100種類の植物が細長い屋上に植えられ、色とりどりの花が咲いています。



庭園に入ることはできませんが、4階の窓からご覧いただけます

### 千葉大学病院公式チャンネルを動画サイトYouTubeに開設

現在、当院の歴史や特徴、ビジョンを病院長や職員のインタビューなどを交えてお伝えする「病院紹介動画」や、手術を受ける患者さんに準備内容をお伝えする動画を配信しています。今後も、文字だけでは伝えにくい情報を映像でわかりやすく発信してまいります。



当院ホームページのトップページからもご覧いただけます

### 学生サンタによるクリスマスコンサート

12月11日

普段はそれぞれ医学部・薬学部・看護学部で学ぶ千葉大生たちで構成されたなのはな音楽部が、今年もご来院の皆さまにクリスマスソングをお届けしました。街でよく耳にするクリスマスソングをはじめ、懐かしいアニメソングなどで会場を明るい音で彩りました。



サンタクロースに扮して演奏をするなのはな音楽部

## 患者相談窓口

外来診療棟1階 患者支援センター内  
月～金 8:30～17:00  
予約不要

医学的な質問、臨床試験に関すること、療養上の不安、入院生活でお困りのことなどをご相談ください。医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、医療メディエーターなどがサポートします。併設の「がん相談支援センター」では、がん診療に関する専門的なご相談もお受けしています。

## 患者支援センター

### 「患者さんの悩みや不安に寄り添います」

“もっと患者さん一人ひとりに寄り添ったサポートを”との思いから、看護師が中心になって設置された患者支援センター。

「家族と一緒に過ごすため、一日でも早く退院したほうが良かったのでは？」

「医療福祉制度を早く知っていれば負担を減らせたかもしれない……」

「入院したら両親の介護はどうしたらいいの？」

など、患者さんが本当に必要としていることや抱えている問題を見つけて、サポートしています。



東北大学が患者支援センター業務を視察しました

## 手術

### 患者さんも医療チームの一員です

早期回復の大きな鍵を握っているのは、患者さんご自身です。手術前から口腔ケアによる感染症予防、リハビリ専門スタッフと行う呼吸訓練や体力向上などの「事前の準備」が早期回復に大きく影響します。「周術期管理センター」発行の冊子『手術を受けることが決まったら』と動画（当院ホームページ）をぜひご覧ください。

#### 手術の前にお薬を確認



使用中の薬は、サプリメントも貼り薬や目薬もすべて教えてください。薬の確認がスムーズに進むよう、お薬手帳やお薬説明書をお持ちください。

#### リハビリは手術前から



手術後は、ベッドに寝ている状態が続くため痰が増えます。うまく出せないと肺炎などの合併症を併発してしまうので、手術前から呼吸訓練などをします。

#### 口腔ケアで早期回復!



手術後は体力ばかりでなく免疫機能が低下し、細菌感染しやすい状態になります。手術前から口腔ケアを受けて早期回復につなげましょう。

#### 麻酔についてご理解を

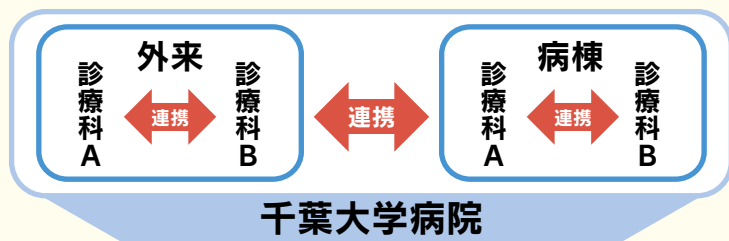


麻酔科医と手術室看護師は、患者さんの全身状態と手術内容を事前確認して手術に備えます。患者さんも麻酔の方法や副作用などを事前にご確認ください。

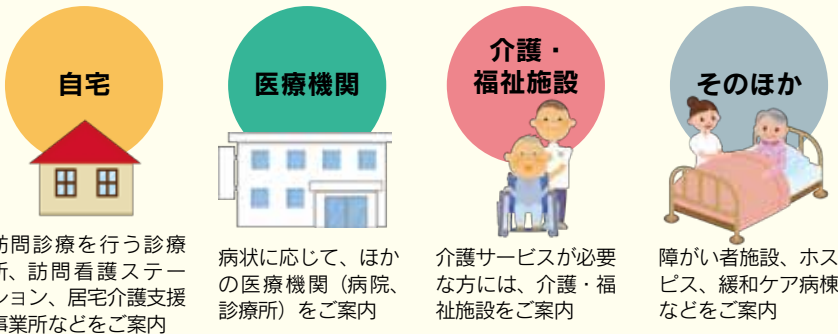
## 退院

### 退院後もその人らしくあるために

入院前にお伺いしていた情報は、「地域医療連携部」や「病棟」など、診療に必要な部署に提供しています。院内の連携をはじめ、地域の医療機関とも連携し、退院後の療養先をスムーズにご案内するなど、安心して療養いただけるようサポートしています。



#### 継続看護が必要な場合、療養先までサポート



## 患者さんのための Q&A

### Q ブーツは水虫になりやすくて本当ですか？

A はい、本当です。水虫（足白癬（あしはくせん））は、白癬菌（はくせんきん）というカビの一種によるもの。適度に温かく湿ったところを好みます。まさにブーツ内は温かさ、湿り気、密着状態の三拍子そろった絶好の環境で、冬場は感染する女性が増えています。一日中、

革靴を履いている男性も要注意です。

#### 寝る前に足を洗って予防を

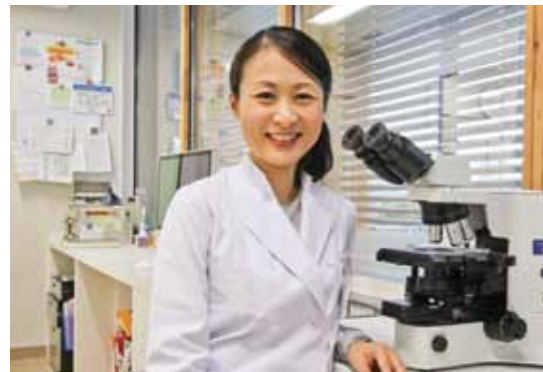
白癬菌は、家庭内、公衆浴場、スポーツジム、プール、飲食店の座敷など、生活環境のいたるところに潜んでおり、菌が角層に12時間以上密着し、角層内に進入すると感染してしまいます。菌が付着しても、タオルで拭いたり、石鹸で洗ったりすれば容易に除去されますが、翌日足を洗うまで何もしない間に菌が増殖して感染してしまうことがあります。

冬は、温泉に行ったり、宴会に誘われたり、ブーツを履く頻度が増えたりと、意外と水虫になりやすい季節ですので、就寝前に必ず足を洗って、予防してください。

#### 水虫のときの靴は、しばらく履かないで

水虫かも？という症状がありましたら、皮膚科を受診してきちんと検査と治療を受けてください。

ただ、気をつけていただきたいのは、靴やブーツの中に角質とともに脱落した白癬菌は、何カ月も感染力を持っているということです。再感染予防のために、数カ月間は菌のついた靴を履かないように。抗真菌薬クリームなどの外用治療を継続するとよいでしょう。



いわさわ まり 皮膚科 医師 岩澤真理

# 難病の治療法を確立するために 治験とともに啓発活動を実施

希少疾患「クロウ・フカセ(POEMS)症候群」の新しい治療法を待ち望んでいる患者さんのため、正式に保険適応を取得するための活動を実施しています。

## 希少疾患の患者さんに 新しい治療方法を届けたい

難病に悩む患者さんに、有効とされる治療法と薬を早く提供できるようにする——それが私たち医療人の使命です。

私たちが研究しているクロウ・フカセ症候群とは、骨髄の中にある形質細胞という細胞の腫瘍によって生じる病気です。異常な形質細胞が増えるとともに異常なタンパク質がたくさん産生されることで、全身に様々な症状を引き起こします。そのため診断が非常に難しく、急速に症状が進行することも多いため、重症化しやすいことが特徴とされています。病態に不明な点が多く、患者数も少ないため、標準的な治療法は確立されているとは言えません。

患者さんにとって、「今」がとても大切です。私たちは、全国から来院される患者さん寄り添い、「今すぐ治療を受けたい」という思いに応えられるよう努めています。

## サリドマイドを使用した 新しい治療法の確立を目指しています

これまでの治療は、同じ形質細胞の腫瘍が原因である「多発性骨髄腫」にならって進歩してきました。その中で、クロウ・フカセ症候群に有効性が高い新規治療として注目されているのが、サリドマイドという薬剤です。千葉大学病院では、サリドマイドを使用した治療法の有効性と安全性を証明し、正式に保険適応を取得して患者さんに効果的な治療法を提供するために、2006年から臨床試験を開始しました。そして2010年9月から2015年8月まで、治験を実施。現在は治験の結果をまとめ、厚生労働省に承認申請を行うための準備を進めています。

サリドマイドを正式に使用することができるようになれば、高齢の方や全身状態の悪い方、移植療法のような強い治療を希望されない方にも、安全で効果的な治療が提供できるようになる可能性があります。その実現に向けて、活動を継続中です。



神経内科  
助教  
せきぐちゆかり  
関口 縁

臨床試験部  
薬剤師  
かたやまかなこ  
片山加奈子

神経内科  
講師  
みさわそのこ  
三澤園子

三澤園子 / 1999年に千葉大学医学部卒業後、2014年より現職。  
関口 縁 / 2004年に千葉大学医学部卒業後、2013年より現職。  
片山加奈子 / 1998年に千葉大学大学院薬学専攻卒業後、2007年10月より現職。

## 私たち3人は “働くお母さん”です

3人なりの、①仕事と家庭と育児を両立するコツやポイント、②ストレス解消法、について自己紹介します。

三澤：長男6歳、長女5か月の母です。①楽しむ気持ちを忘れずに、何にでも取り組むようにしています。②子供の笑顔を見るのが一番！

関口：長女1歳の母です。①院内にいる心強いママ先輩たちに支えられ、見習いながら両立させています。②おしゃべりと読書です。

片山：長女11歳、長男9歳、次男4歳、三男3歳の母です。①仕事でも家庭でも、一人で抱え込まず、周囲の協力を得るようにしています。②お酒です！

## 全国の医師や患者さんから協力を得るための啓発活動も実施

厚生労働省が2004年に行った調査では、クロウ・フカセ症候群の患者さんは全国に約340名と推定されています。しかし、診断がつかずに見逃されていることが多い可能性も指摘されており、実際の患者数はもう少し多いと言われていています。そこで、千葉大学病院では、全国の医師や患者さんへ向けて、クロウ・フカセ症候群へのご理解と治験へのご協力を得るためのパンフレットや下敷きなどを制作・配布。啓発活動も積極的に実施しています。



## 私の アウト の フ イ



国内外へ写真を撮りに旅行しています

リハビリテーション部 作業療法士  
いまだ やすひろ  
今田泰裕

## 手間がかかるから楽しい!

作業療法士の仕事は、心身に障害をお持ちの方が“やりたい!”と思う“作業”(身の回りの動作や仕事、趣味など)ができるよう、お手伝いすることです。「箸が使えるようになった!」「畑仕事頑張ってるよ!」など患者さんが自らの目標を達成できた時、この仕事のやりがいを感じます。私の趣味は写真と旅行です。写真は学生の頃に始めて、デジタル一眼やフィルム一眼を使っています。愛機は、1971年の発売当時、そのコンパクトさが大きな話題となったOLYMPUS om-1。現在フィルムの販売は縮小傾向で、需要も減り、手間も多くなっていますが、現像して、プリントしてやっと写真に会えるドキドキ感や、暗室で作り出す銀塩モノクロプリントの質感と仕上がりは、やはり特別です。

## 働く 現場日記

## 高度で安心・安全な医療を 提供し続けるために

いのうえたかひろ  
病院長企画室 室長 井上貴裕

新しい医療機器を購入したり、十分な医療スタッフを確保したりするなど、患者さんに高度で安心・安全な医療を提供し続けるためには、健全で安定した病院経営が不可欠です。そこで、2015年4月に病院長直属の組織として「病院長企画室」が新設されました。

当院の運営・財務・経営に関する内容から、地域・海外の医療機関との連携、そして千葉大学・地方公共団体・中央省庁との連携にいたるまで、病院運営に関する分析、企画、立案、調整を広い視野に立って行っています。

これからも、病院経営戦略・安全管理・財務分析などの専門家4名が、医師・看護師などそれぞれの経験を活かしながら、患者さんのためにさまざまな施策に取り組んでまいります。

将来を見据えた病院  
運営を検討しています

## あとがき

新年明けましておめでとうございます。外来診療棟のフルオープンから半年が経ち、この4月には改修を終えた新しいみなみ棟も稼働します。小児・新生児関連の機能強化が図られるとともに、快適かつ機能的な受診空間がさらに広がります。ご来院の患者さんに「千葉大学病院で医療を受けてよかった」とつねに感じていただけるよう、スタッフ一同、引き続き努力してまいります。より機能的で患者さんにやさしい診療を目指し、進化を続ける千葉大学病院に今年も是非ご注目ください。(総務課 課長 星幹崇)

【いのなハーモニー】43号 発行日 2016年1月15日  
発行 千葉大学医学部附属病院  
〒260-8677 千葉県千葉市中央区玄鼻1-8-1  
TEL 043-222-7171(代表) http://www.ho.chiba-u.ac.jp/  
※ホームページでバックナンバーがご覧いただけます